

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1 日発行
平成 26 年 8 月号

「日本一のネギ産地」を目指して、新たな取組

J A 山武郡市 販売開発部
吉田 信夫

JA 山武郡市では、平成 25 年 4 月に国庫事業（平成 24 年度千葉県強い農業づくり交付金等事業）により施設面積 2,468.5 m²、保冷库 250 m²、真空予冷装置・パッケージ室を備えた広域一元集出荷場「さんむ中央集出荷センター（愛称：さんむ やさい広場）」を竣工稼働し、新たな産地づくりをスタートさせました。

1 一元集出荷場研究会の発足

平成 21 年、JA 山武郡市成東経済センター運営協議会において一元集出荷場の設置要望が出され、検討が開始されました。これまで同センター管内の成東、南郷、緑海、鳴浜の 4 地区では、それぞれの地区単位で集荷販売を行っていました。同地区は県内でもトップクラスの産地ですが、流通の変化により大型ロット、コールドチェーン化が求められる中、その生産量を生かせる販売が行われていませんでした。そこで、地区役員・生産者代表により構成された一元集出荷場研究会を設立し、新しい集出荷場、施設の有効活用と運営や集荷・販売対策、組織構成などについて協議を重ねました。そして平成 25 年 3 月、念願の広域一元集出荷場「さんむ中央集出荷センター」が完成しました。

2 新たな生産者組織の設立

さんむ中央集出荷センターの竣工にともない、同年 6 月には集出荷センターを利用する生産者組織「さんむ中央園芸連合会」が発足しました。同連合会は山武市、九十九里町、東金市にまたがる地域の 5 つの生産者組織、300 名が加入。また、同センターの円滑な運営と集出荷体制を構築するために施設運営協議会、予冷施設運営委員会、検査委員会、運送協議会、専門部会などが組織されました。主力品目のネギは平成 25 年度産で作付面積 130 ヘクタール、出荷量 920,000 ケース、販売高 12 億円となり、大型ロットでの販売が可能になりました。ネギの他にニラ、ソラマメ、ダイコン、トウモロコシ、青瓜などが出荷販売されています。集出荷センターを拠点として園芸振興と、スケールメリットを生かした有利販売について連合会と関係団体が緊密に連携し、運動を展開しています。



3 産地振興と販売力の強化

さんむ中央園芸連合会と集出荷センターに対する生産者の期待は大きく、その役割は重要であり、連合会、センターとしては、産地の生産基盤の変化や実需者・消費者ニーズの変化を的確に捉えなければなりません。また、地域農業においては遊休農地の拡大、高齢化、担い手不足への対策が急務となっています。

このような情勢の中、集出荷センターの有効活用と組織力を生かした販売力の強化、生産者手取りの安定化、「選ばれる産地」「日本一のネギ産地」を目指し、産地と関係機関が一体となり産地振興と活性化に取組んで参ります。

簡易被覆栽培による早出し出荷を実施中 「いすみ市岬町 安藤亮太さん」

夷隅農業事務所 改良普及課
普及指導員 佐々木 良規

いすみ市岬町のナシ農家の多くが、旧盆前の早出し出荷を行うため、圃場をビニールで覆い開花を早める、簡易被覆栽培を行っています。安藤亮太さんも、この栽培方法を用いることで、早期出荷を行っています。

1、経営の概要

安藤亮太さんは、現在、いすみ市岬町で祖父・父母・本人の三世代で、ナシ栽培に携わるナシ専業農家です。簡易被覆幸水 30 a、露地幸水 40 a、豊水 70 a、あきづきなど 20 a を栽培しています。

亮太さんは、大学卒業後すぐに就農しました。就農 3 年後の平成 22 年には、家族経営協定を結び、現在は、父との共同経営という形で経営を行っています。



ナシの樹と亮太氏

2、販売について

販売に関しては、市場価格の高い旧盆前は、簡易被覆幸水を中心に出荷します。その後、市況が低迷する旧盆後は、豊水を中心に直売出荷をすることで、所得の拡大を図っています。

最近では、あきづきなど新しい品種の栽培にも取組、収穫時期の労力分散を図っています。

3、簡易被覆幸水について

簡易被覆幸水は、3月中旬から圃場をビニールで覆うことで、開花を早める栽培方法です。

これにより収穫時期を前進化することが出来ます。暖房は行いませんが、満開日は露地栽培のものより 7 日程度、収穫時期で 10 日程度の早出しが出来ます。

これを産地一丸で取組むことで、早出し産地としての評価を市場から得られ、有利販売につながっています。



この上にビニールを張ります

4、今後の経営について

現在、一宮・岬梨組合研究部に所属し、栽培・販売について知見を深めている亮太さんです。これからは、他品目の栽培農家とも付き合いをより深め、多様な観点からナシ栽培を見つめることで、よりよい品質のナシづくりをしたいと意気込みを語ってくれました。

秋どりほうれんそうの優良品種

千葉県農林総合研究センター
野菜研究室 主席研究員 大木浩

9月下旬播種の秋どりほうれんそうの品種比較試験を行い、「ミラージュ」など7品種を優良品種として選定しました。

1. はじめに

千葉県のほうれんそうは、平成23年産の産出額は122億円で、全国でもトップクラスを誇っています。生産面での主な課題として長期間の連作による収量や品質の低下が上げられ、これらを回避するためには、適切な土壌管理のほか、病害や障害に強い優良品種の選定が重要です。

そこで、平成24年に県内の主要な作型である秋どり栽培において、第60回千葉県野菜品種審査会として品種選定試験を行いましたので、結果を紹介します。

2. 生育初期は天候不順

試験は当センターの露地圃場で23品種を供試して行いました。施肥は全量基肥とし、窒素、リン酸及び加里をそれぞれ10a当たり14kg施用しました。播種は9月26日にシードテープで6条(条間15cm×株間4cm)1粒まきとしました。

播種直後の台風や高温の影響によって、一部の品種では発芽が不良となり、欠株が目立つものとなりましたが、その後は、目立った病虫害の発生なく、生育は順調でした。

3. 7品種が入賞

収穫と審査は11月6日に行いました。収量性や草姿を審査した結果、「ミラージュ」(写真)、「プロGRESS」など7品種が入賞となりました。

入賞品種は欠株が少なく、草姿も中間から立性で比較的収穫がしやすいものでした。収量は「アクセラ」の1,900kg/10aが最も多く、他の入賞品種も県内の平均的な収量以上でした。また、入賞品種の中では、「プロGRESS」の葉が最も短くコンパクトで、在圃性に優れていました。葉色はどれも濃緑であり、SPAD値で40以上でした。

4. おわりに

このように、入賞7品種は病害や障害に強く、多収で濃緑であり普及性の高い品種です。これらが産地に普及することで、より安定的なほうれんそう生産に貢献できれば幸いです。



写真 1位の「ミラージュ」

表 入賞品種の特性

順位	品種名	欠株程度	立性程度	収量(kg/10a)	葉身の大きさ	葉形	葉色(SPAD値)	出品社名
1	ミラージュ	無	やや立	1,640	中	中間	46.5	(株)サカタのタネ
2	プロGRESS	無	やや立	1,540	小	やや丸葉	47.3	(株)サカタのタネ
3	TSP-484	無	やや立	1,730	中	中間	44.6	タキイ種苗(株)
4	パッカー10	無	やや立	1,810	中	中間	42.0	中原採種場(株)
5	アクセラ	少	中間	1,900	やや大	中間	43.2	タキイ種苗(株)
6	MSS-1078	無	中間	1,280	中	中間	48.6	(株)武蔵野種苗園
7	シールド7	少	立性	1,380	小	やや丸葉	44.1	(株)日本農林社

注)葉色は数値の大きいものほど緑色が濃い

植木・盆栽類輸出促進のためのオオハリセンチュウ対策

千葉県農林総合研究センター
病理昆虫研究室 研究員 武田 藍

千葉県産植木の輸出量増加に伴い、輸出相手国側での検疫時に植物に寄生する有害線虫が検出される事例が増加しています。ここでは、特に警戒されているオオハリセンチュウについて、輸出前に行う対策技術を紹介します。

1. 植木輸出量の増加と線虫問題

海外では日本の伝統的な植木・盆栽類への人気が高まっており、千葉県は全国の輸出額の4割を占める重要な生産拠点となっています。しかし、輸出量の増加とともに、輸入国側の検疫で土壌中から植物寄生性線虫が検出される事例が多発し、早急な対策が求められています。千葉県農林総合研究センターでは、植木輸出促進に向け、オオハリセンチュウに対する薬剤防除技術を確立しました。

2. オオハリセンチュウ

植木圃場からは様々な植物寄生性線虫が検出され、その中でもオオハリセンチュウは検出率が高く、輸出相手国で最も警戒されている線虫です。しかし、植木類における防除方法は明らかになっていませんでした。

3. オオハリセンチュウに効果のある薬剤

植木の根部を麻布や麻ひもで被覆し、薬剤に浸漬する「根部浸漬処理」によるオオハリセンチュウ防除効果を検証した結果、MEP 乳剤及びベノミル水和剤において高い密度低減効果が確認されました。一方、ネグサレセンチュウに対して効果が確認されているホスチアゼート液剤は、オオハリセンチュウに対しては密度低減効果が確認されま

せんでした。また、オオハリセンチュウに効果のあった MEP 乳剤とベノミル水和剤はネグサレセンチュウに対する効果は認められませんでした。これらのことから、発生している線虫の種類によって防除薬剤を適切に選択する必要があると考えられました(表)。

4. それぞれの薬剤の効果の特徴

オオハリセンチュウに対して MEP 乳剤及びベノミル水和剤を使用した場合、効果の得られ方が異なります。それぞれの特徴は以下の通りです。

○MEP 乳剤

- ・処理後効果が得られるまで3～7日を要します。
- ・冬期処理以外で野外に置いておくと、処理2週間後には生き残った卵が孵化して密度が再度上昇してしまいます。
- ・処理後に5℃以下で保存すれば、2か月以上低密度条件が持続します。

○ベノミル水和剤

- ・処理後効果が得られるまで1～2週間を要します。
- ・冬期処理以外でも2か月間は低密度条件が持続します。

表 植木の線虫類に登録のある薬剤 (平成 26 年 5 月現在)

対象線虫	一般名 (商品名)	希釈倍数	使用方法
オオハリセンチュウ	・ MEP 乳剤 (スミパイン乳剤、スミチオン乳剤) ・ ベノミル水和剤 (ベンレート水和剤)	500 倍	30 分間 根部浸漬
ネグサレセンチュウ	・ ホスチアゼート液剤 (ネマバスター)	1000 倍	10 分間 根部浸漬

皇室献上100回記念に伴う 房州びわのキャンペーン

千葉県 農林水産部 生産振興課

全国農業協同組合 千葉県本部 園芸部 園芸販売課

房州びわは、1751年より栽培が始まって以来、約260年にわたって今日まで生産され、千葉県で伝統と歴史のある特産物のひとつです。他産地のびわと比べて果実形状が大きいことや食味が良いことで、消費者から高い評価を得ています。

明治42年に皇室への献上が始まり、以来毎年6月半ばに厳正な審査を経て皇室へびわが献上されています。この平成26年は房州びわが皇室献上100回を迎える記念すべき年となり、その記念イベントのひとつとしてJA安房・指定市場との共催で千葉県内の量販店にて販売促進を兼ねたキャンペーンを開催いたしました。



今回は、2か所の会場で6月7日（土）と13日（金）、14日（土）に開催しました。2か所の会場のうちのひとつ、イオンモール幕張新都心（7日、14日）では、試食を担当した「千葉のくだものセールスレディー&ボーイ」の皆さんが集まったお客さんに、房州びわのおいしさを積極的にPRしました。会場は若いお客さんも多く集まり、「甘いね。買っていこう。」「みずみずしくて、おいしいね。」などの声が聞かれました。特に14日は、12日に開催された千葉県びわ共進会にて表彰された品を展示し、お客さんからは「千葉のびわはこんなに大きいんだ。」と感嘆の声があがりました。また、この日は「県民の日」のイベントとも重なり、森田県知事が房州びわを手にとって力強いPRをされ

た他、千葉県の人気マスコット「チーバくん」も会場に現れるなど、盛況となりました。

もうひとつの会場となった澤光青果船橋店（13日、14日）でも、試食による販促PRは好評となり、お客さんのなかには子供たちがおいしいと言って喜ぶ姿もありました。試食宣伝の効果もあって売れ行きは良く、短時間で品薄になる程の盛況ぶりでした。



今年は冬の厳しい寒さによる生育不良や、カメムシの影響などから例年より数量が少ない出荷が続く、キャンペーンにおける物品の確保が厳しくなることも予想されました。しかしながら、房州枇杷連合会及びJA安房の協力を得て無事に開催し、献上びわ100回記念を飾ることができました。改めて、産地の皆様に感謝を申し上げます。

「房州びわ」の販売先確保と消費拡大を目的に、試食を交えた今回のような販売促進キャンペーンは、有効な取組であることから産地と連携しながら、次年度も引き続き展開していきます。



“千葉なし味自慢コンテスト”
開催のお知らせ

このコンテストは、県内で生産される梨の品質向上と消費拡大を目的に毎年開催しています。

本年は、甘さと酸味のバランスが絶妙で濃厚な味わいの「豊水」を対象に、産地から 100 点を超える選りすぐりの梨を集め、「千葉なしナンバーワン！」を決定します。

また、期間中は「豊水」の試食や楽しいゲームを行うとともに、最終日には、出品物を即売します。

皆様の御来場をお待ちしております。

1 期 日 平成 26 年 9 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日)

6 日 (土) 専門家による審査
審査の様子は御覧いただけます。

7 日 (日) 午前 11 時から一般来場者の方
先着 50 名様に食べ比べていただき
ナンバーワンを決定します。
午後 3 時から、展示品の即売

2 会 場 イオン津田沼店 1 階センターコート
(新京成線新津田沼駅下車徒歩 2 分)

3 問い合わせ先 千葉県農林水産部生産振興課
TEL : 043-223-2872

千葉県立農業大学校
「樹勢診断と回復技術講座」 募集

植木生産者や造園業者、本講座に興味のある方を対象に、樹木の病害虫、気象障害や土壌障害などの基礎知識を習得し、庭木についての生育診断と回復技術を現地ほ場で実習する。

日 時 : 平成 26 年 10 月 9 日 (木)

受付: 9 時 30 分から (農業大学校本館玄関)

講義・実習: 午前 10 時から午後 3 時頃

場 所 : 千葉県立農業大学校

講 師 : 樹木医 松原 功 先生

定 員 : 先着 30 名

受講料 : 無料

申込方法 : 講座名、氏名、住所、郵便番号、
電話番号、所属を記入のうえ、
9 月 1 日 (月) ~ 9 月 30 日 (火) の期間に
郵送、FAX 又は持参。

申込先 : 千葉県立農業大学校農業研修科
(担当 石橋)

〒283-0001 東金市家之子 1059

電話 : 0475-52-5140 FAX : 0475-54-0630

千葉のカレーフェア 2014 開催中

千葉県では、7 月 19 日から 8 月 31 日までの間、県産食材の魅力発信と、消費拡大を図るために、各地の飲食店が具材に県産の野菜や肉、魚介類を使った自慢のオリジナルカレーを提供する「千葉のカレーフェア 2014」を開催しています。

今回で 4 回目となるフェアには 100 店が参加し、「食の宝庫ちば」ならではの様々なカレーで、千葉の農林水産物を PR します。

担当 : 流通販売課 販売・輸出促進室

